

# くものいと

第7-8号  
31-XII-1990  
関西クモ研究会

## 和歌山県のキシノウエトタテグモと カネコトタテグモについて

東 条 清

### 1. キシノウエトタテグモ *Latouchia typica* (Kishida)

1988年2月7日、真正クモ類調査のため和歌山市水軒、養翠園（旧紀州徳川家の御料地）へ行った時、池の周囲にある老松の根元で住居5、古住居3を確認したが、続いて同年2月16日、和歌山市、岡公園の傾斜地において古住居5を確認した。

また、同年4月26日、和歌山城西の丸庭園（紅葉溪庭園）の傾斜地で住居3、古住居1と和歌山市真砂町、和歌山大学附属小学校地内の大きなマツの根元で住居3、古住居1を確認した。更に同年6月14日、海南市温山荘において、住居15古住居5を確認した。キシノウエトタテグモは、近畿2府4県のうち和歌山県だけが今日まで確認されていなかったのが今回これが初記録となったわけである。

（なお、詳しくは、『南紀生物』May, 1988, Vol. 30, No. 1および『紀州生物』1988年第17号に登載）

### 2. カネコトタテグモ *Antrodiaetus roretzii* (L. Koch)

真正クモ類調査のため県下をまわっているなかで、1988年9月26日、海南市日方、柿本神社社叢内の崖地で住居3、古住居1をみつけたが、その後詳しく調査した結果、1989年2月末現在で112（穴の入口直径4mm以上）を確認した。（なお、その後更に詳しい調査で1989年4月21日現在住居145となる）。

また、1988年10月4日、有田市千田、須佐神社社叢内の崖地で住居10をみつけたが、その後詳しく調査した結果、1989年2月末現在で17（穴の入口直径4mm以

上)を確認した。更に1988年10月12日、日高郡由良町、興国寺境内の崖地で住居3(穴の入口直径6mm以上)を確認した。

和歌山県のカネコトタテグモについては、1966年葛城山系岩湧山で浜村徹三氏が、1973年7月27日同葛城山系三石山で八木沼健夫博士・吉村守氏が、また、1976年5月2日大塔山系大杉谷で後藤岳志氏が確認(八木沼健夫博士同定)しているだけである。従って、今回筆者の確認により6ヶ所となったが、(詳しくは、『南紀生物』May, 1989, Vol. 31, No. 1に登載)なお、未発表であるが、1989年7月8日、海草郡美里町谷の崖地で住居17(穴の入口直径3mm以上)を新しく確認することができたので、1989年7月末現在和歌山県で7ヶ所確認できたことになる。

## 言 卜 幸 辰

日本蜘蛛学会名誉会員である大阪の大井良次博士が1989年5月20日他界されました。享年84歳でした。

先生は戦後台湾から引き揚げ後、大阪市立大学家政学部の助教授・教授を歴任、その後大阪府茨木市にある梅花女子大学教授となられ、まもなく同大学学長としてその重責を果たされました。ご多忙の中にあっても、クモの研究は続行され、また関西での採集会や研究会ではご親切に私達を指導して下さいました。

ご承知の通りサラグモ科の日本における最高権威者であり、未開拓で研究困難な日本のサラグモの究明に先鞭をつけられ、その研究業績は大きく、その名は海外にまで知れ渡っています。

いまこの大先生を失ったことは、われわれのみならず、日本否世界のクモ学界にとって誠に残念なことであります。

ご葬儀は5月22日(月)、大阪府吹田市の千里会館で行われ、学界からは弔電を打つとともにお供えをしました。八木沼健夫・西川喜朗両氏が会員を代表して、またサラグモでとくに指導を受けられた、斎藤博氏は山梨県から急拠かけつけおまいりされました。

先生に関する詳細は、いずれ日本蜘蛛学会で会報A T Y P U Sに掲載される予定\*であります。とりあえず関係会員にお知らせします。(関西クモ研究会)

\* A T Y P U S 9 5 号に掲載されています。

## 大井先生と幻の学名

清水裕行

大井良次博士は大著 "Linyphiid Spiders of Japan" の中で 54 種のサラグモ類と 1 種のヒメグモ類の新種を発表し、日本のサラグモ研究の基盤を築かれたが、これらの他に幻の学名が記録されたことは案外見過ごされてきた。同論文の第 5 図版の Fig. 62 の説明は "*Aprifrontaria haguroensis*" となっている。Aprifrontalia は大井博士が本文の 150 頁に記載した新属であるが、本文には模式種の *A. mascula* (Karsch) (pp. 150-152, pl. 4, figs. 55-61) 1 種が記載されているだけである。また、この論文と一緒に配布された正誤表では、はっきりと *haguroensis* を *mascula* の誤りとしている。以上のように、① 図があるだけで、*A. haguroensis* としての記載が全くないこと、② 著者が誤りであると表明していることから、これが無効学名であることは明かである。この "学名" は *nomen nudum* ではなく *invalid* とみるべきで、今後分類学上の対象にされて学界を混乱させる恐れは全くないと思うが、このような結果に到ったことに興味を覚え、"*haguroensis*" が出現したいきさつを推測してみた。

大井先生が *mascula* の再記載に用いた標本は、山形県羽黒町産の雌雄 (標本提供者は興津伸二氏でオキツハネグモに献名されている) であるが、152 頁には、"LOCALITIES" とすべきところが "TYPE LOCALITY" となっている。これから察するに、先生は羽黒町から得られた標本を新属新種の *Aprifrontaria haguroensis* として発表の準備をしておられたが、後に、既知種の *Microneta mascula* (Karsch, 1879) (: Bosenberg et Strand, 1906, 原記載は *Erigone m.*) であることがわかって学名を改めたが、新種記載の体裁はそのままであったと思われる。"*haguroensis*" が残ってしまったのは、palp の図だけ次の図版にあったために見落とされたのであろう。

結局、150 頁の下から 3 行目の小見出しの "Pl. IV, Figs. 55-61" の後に ", Pl. V, Fig. 62" を加え、152 頁の上から 1 行目の "TYPE LOCALITY" を "LOCALITIES" と改めて、同じ行の "(holotype)", "(allotype)" 及び "Other record" の 3 ヶ所を削除するのが妥当であろう。以上は微笑ましいミスであるが、脱稿後も文献の検討を怠らない先生の慎重な研究姿勢を垣間見ることができて、感銘を受けた。先生がお元気な

うちにこの点を確認できなくて残念である。

大井良次先生はそれまでほとんど手がつけられていなかった日本の土壌性クモ類研究の先鞭をつけられ、特にサラグモ類のモノグラフは日本のクモを同定・研究する際には欠かすことのできないバイブルである。私は文献を通じて先生から多くのことを学んだが、実際にお目にかかったのは、同じ関西におりながら、2度だけで、どちらもパーティの席上であったため突っ込んだ御指導を受けたことはなかった。梅花女子大学長という重職にあって御多忙であったことや、最近では健康を害しておられた等悪条件が重なったとはいえ、今にして思えば悔やまれてならない。今はただ、心から哀悼の意を表するのみである。

### 大井良次博士の業績 (クモ学に関するもののみ)

- (1) 著 作 (ATYPUS, 95号参照)
- (2) 発表されたクモの新属 (ATYPUS, 95号参照)
- (3) 発表されたクモの新種 (ATYPUS, 95号参照)

#### (4) 大井先生に献名された学名・和名

##### ① 属 名

*Oia Wunderlich*, 1973 オオイサラグモ属 (和名は斎藤博氏命名)

*Oinia Eskov*, 1984

##### ② 種 名

*Linyphia oidedicata* (Helsdingen, 1969)

*Syedra oii* H. Saito, 1983 オオイオリヒメサラグモ

##### ③ 和 名

オオイムナキグモ属 (*Diplocephaloides Oi*) (八木沼健夫氏命名)

## 中国のクモ新種つづき ( 2 )

細蟹舎通信 [9] (「くものいと」、第6号) よりあとに知り得た中国のクモの新種を掲げます。既発表のものも含めて、文献必要な方は八木沼宛お問い合わせ下さい。

149. *Chirobrahys hubei* Song et Zhao, 1988 湖北省  
宋大祥・趙敬釗, 1988. 我国捕鳥蛛科 (Teraphosidae) 一新種記述. 湖北大報, 1988-1:4-6.
150. *Pirata haploapophysis* Chai, 1987 河南省
151. *P. tenuisetaceus* Chai, 1987 河南省・河南省  
蔡柏岐, 1987. 水狼蛛属 (*Pirata*) 2 新種. 動分学報, 12(4):362-366.
152. *Zilla conica* Yin, Wang et Zhang, 1987 湖南省
153. *Z. plumipedella* Yin, Wang et Zhang, 1987 湖南省  
尹長民・王家福・張永靖, 1987. 中国寬肩園蛛的研究. 湖南師範大自然科学報, 10(1):62-68.
154. *Philodromus renarius* Wu et Song, 1987 内モンゴル
155. *P. triangulatus* Wu et Song, 1987 内モンゴル
156. *Thanatus neimongol* Wu et Song, 1987 内モンゴル  
烏力塔・宋大祥, 1987. 内蒙古逍遙蛛科研究. 内蒙古師大報, 1987(1):28-37.
157. *Pardosa anchoroides* Yu et Song, 1988 内モンゴル
158. *P. sanmenensis* Yu et Song, 1988 浙江省
159. *P. zhui* Yu et Song, 1988 江西省
160. *P. procurva* Yu et Song, 1988 雲南省
161. *P. dondalei* Yu et Song, 1988 四川省

162. *P. soccata* Yu et Song, 1988 新疆
163. *P. strenna* Yu et Song, 1988 チベット
164. *P. strigata* Yu et Song, 1988 雲南省
165. *P. wuyiensis* Yu et Song, 1988 福建省
- 虞留明·宋大祥, 1988. 中国豹蛛属新種記述. 動分学報, 13(1):27-41.
166. *Walckenaera dentata* Zhu et Zhou, 1988 新疆
- 朱伝典·周娜麗, 1988. 新疆皿蛛科蜘蛛一新種. 動分学報, 13(4):343-345.
167. *Nerienne decormaculata* Chen et Zhu, 1988 湖北省
- 陳建·朱伝典, 1988. 神農架林区蓋蛛属一新種. 動分学報, 13(4):346-349.
168. *Gnathonarium phragmigerum* Gao et Zhu, 1988 湖北省
- 高久春·朱伝典, 1988. 神農架林区額角蛛属一新種. 動分学報, 13(4):350-352.
169. *Zodarium furcum* Zhu, 1988 遼寧省·河北省
- 朱明生, 1988. 中国擬平腹蛛属一新種. 動分学報, 13(4):353-355.
170. *Liphistius cipingensis* Wang, 1989 (江西省)
- 王家福, 1989. 我国南方八紡器蛛一新種. 動分学報, 14(1):30-31.
171. *Floronia jiuhuensis* Li et Zhu, 1987 (湖北省)
172. *Arcuphantes ramosus* Sha et Zhu, 1987 (湖北省)
173. *A. curvatus* Li et Zhu, 1987 (四川省)
- 李枢強·沙玉華·朱伝典, 1987. 中国弗蛛属和耳蛛属的研究. 河北大学報(自然科学), 1977-4:43-48.
174. *Clubiona acumina* Zhu et An, 1988 (山西省)
175. *C. manshanensis* Zhu et An, 1988 (河北省)
- 朱明生·安瑞永, 1988. 我国管巢蛛属二新種. 河北教育学院学報自然科学版, 1988-2:72-75.
176. *Araneus affinis* Zhu, Tu et Hu, 1988 (山西省)
177. *A. ancurus* Zhu, Tu et Hu, 1988 (山西省)
178. *A. chunhuaia* Zhu, Tu et Hu, 1988 (山西省)
179. *A. diadematoides* Zhu, Tu et Hu, 1988 (山西省)
180. *A. diffinis* Zhu, Tu et Hu, 1988 (山西省)
181. *A. guandishanensis* Zhu, Tu et Hu, 1988 (山西省)

182. *A. taegunensis* Zhu, Tu et Hu, 1988 (山西省)
183. *A. tricolatus* Zhu, Tu et Hu, 1988 (山東省)
- 朱明生·屠黑鎖·胡金林, 1988. 中国円蛛属初步研究. 河北師大報 (自科), 1988-1/2: 53-59.
184. *Bolyphantes auriformis* Zhu et Tu, 1986 (山西省)
185. *Lepthyphantes rutilatus* Zhu et Tu, 1986 (山西省)
186. *Centromerus forficatus* Zhu et Tu, 1986 (山西省)
187. *Nerienne zanhuangica* Zhu et Tu, 1986
- 朱明生·屠黑鎖, 1986. 我国山西、河北省産皿網蛛研究 I. 河北師大報 (自科), 1986-2: 98-103.
188. *Pholcus yichengicus* Zhu et Tu, 1986 (山西省)
- 朱明生·屠黑鎖, 1986. 晋, 陝幽靈蛛属記述及一新種. 河北師大報 (自科), 1986-2: 121-124.
189. *Heteropoda nanjianensis* Hu et Yong, 1985 新疆
- 胡金林·佗永平, 1985. 新 兩種巨蟹蛛記述. 山東大学学報 (自科), 1985-3: 86-93.
190. *Laufeia proszynskii* Song et al., 1988 海南島
191. *Phintella hainani* Song et al. 海南島
192. *Plexippoides bicuspidatus* Song et al. 海南島
- 宋大祥·顧茂彬·陳樟福, 1988. 海南跳蛛科三新種. 杭州師範学院学報, 1988-6: 70-71.
193. *Orchestina sinensis* Xu, 1987 安徽省
194. *O. thoracica* Xu, 1987 安徽省
- 徐亜君, 1987. 我国奥蛛統兩種記述 (蜘蛛目: 卵形蛛科). 動物分類学報, 12(3): 256-259.
195. *Ischnothyreus flagellichelis* Xu, 1989 安徽省
- 徐亜君, 1989. 中国卵形蛛科檢索及一新種記述. 徽州師專学報, 1989-1: 17-21.
196. *Brachythele xizangensis* Hu et Li, 1988 (ジョウゴグモ科)
197. *Protadia hingstoni* Hu et Li, 1988 (ハグモ科)
198. *Fernandezina gyirongensis* Hu et Li, 1988 (エグチグモ科)

199. *Centromerus yadongensis* Hu et Li, 1988
200. *Pardosa yadongensis* Hu et Li, 1988
201. *Oxyopes gyirongensis* Hu et Li, 1988
202. *Heteropoda altissimus* Hu et Li, 1988
203. *H. gyirongensis* Hu et Li, 1988
204. *H. himalayicus* Hu et Li, 1988
205. *H. nyalamus* Hu et Li, 1988
206. *H. zhangmuensis* Hu et Li, 1988

胡金林·李愛華, 1988. 西藏農林蜘蛛 (1). 西藏農業病虫及雜草 (1). pp.  
315-392.

207. *Oecobius przewaiskyi* Hu et Li, 1988
208. *Titanoeca palpator* Hu et Li, 1988
209. *T. tibetana* Hu et Li, 1988
210. *T. yadongensis* Hu et Li, 1988
211. *Dictyna xizangensis* Hu et Li, 1988
212. *Zoropsis markamensis* Hu et Li, 1988
213. *Pholcus everesti* Hu et Li, 1988
214. *Cyclosa zhangmuensis* Hu et Li, 1988
215. *Enoplognatha mainlingensis* Hu et Li, 1988
216. *Theridion gyirongensis* Hu et Li, 1988
217. *Coelotes brunneus* Hu et Li, 1988
218. *C. pervicax* Hu et Li, 1988
219. *C. gyirongensis* Hu et Li, 1988
220. *Wadotes yadongensis* Hu et Li, 1988
221. *Cryphoeca tibetana* Hu et Li, 1988
222. *Alopecosa chayabensis* Hu et Li, 1988
223. *Chiracanthium gyirongensis* Hu et Li, 1988
224. *Clubiona parallela* Hu et Li, 1988
225. *C. zhangmuensis* Hu et Li, 1988
226. *Orthobula zhangmuensis* Hu et Li, 1988



227. *Pasias zhangmuensis* Hu et Li, 1988  
 228. *Philodromus mainlingensis* Hu et Li, 1988  
 229. *Thanatus xizangensis* Hu et Li, 1988

胡金林・李愛華, 1988. 西藏農林蜘蛛(2). 西藏農業病虫及雜草(2), pp. 247-353.

### 既報の中国のクモの新種リストの訂正

1982年以来7回にわたって、中国学者によって発表されたクモの新種を紹介してきました。その内訳は次の通りです。

- |     |            |                                      |
|-----|------------|--------------------------------------|
| 第1回 | Nos. 1~ 31 | 1982, 追大文紀, (16):184-186. (文在根氏との共著) |
| 第2回 | 32~ 54     | 1983, 追大文紀, (16):184-186. (文在根氏との共著) |
| 第3回 | 55~ 62     | 1984, <i>Atypus</i> , (85):20.       |
| 第4回 | 63~ 88     | 1985, <i>Atypus</i> , (86):20.       |
| 第5回 | 89~ 94     | 1985, くものいと, (4):4.                  |
|     |            | (通番がついていませんが、上から順に書き込んでおいて下さい)       |
| 第6回 | 95~ 100    | 1986, くものいと, (5):2.                  |
| 第7回 | 101~ 148   | 1988, くものいと, (6):5-6.                |

以上の内、次の4種は中国学者の命名したものではなかったか、既に報告したものと重複していたので、削除し、新たに確認したものと入れ換えます。

35. *Hahnia zhejiangensis* (No.29と重複)

→ *Pirata spatulatus* Chai, 1987 (雲南省)

蔡柏岐, 1985. 我国雲南省水狼蛛属1新種. 新郷師範学報, (46):76-77.

95. *Leptoneta microdonta* (No.62と重複)

→ *Diaea xinjiangensis* Song et Hu, 1986 (新疆省)

宋大祥・胡金林, 1986. 中国樹蛛属一新種. 動物学報, 32(4):350-352.

114. *Macrothele palpator* (著者はHu et Li, 1986ではなくて、Pocock, 1901)

→ *Lycosa labialis* Mao et Song, 1985 (河南省)

毛景英・宋大祥, 1985. 狼蛛両新種記述. 動分学報, 10(3):264-267.

(No. 103と同じ文献)

132. *Leptoneta hanghouensis* (No. 63と重複)

→ *Tricalamus menglaensis* Wang, 1987 (雲南省)

動分学報, 12(4):143-147.

また、若干の誤記・ミスプリントがみつかったので、訂正します。

通 番	内 容	誤	正
8	掲載頁	378-379+380	377-379+380-381
9	“	379-380	379-380, 381
32	著者名	Zhe et Mei	Zhu et Mei
52	学名	longjiangensis	longjiangensis
	掲載頁	143-144	148-149
54	学名	hananensis	henanensis
55	著者名	Song, Hu et Wang	Yin, Hu et Wang
89~ 90	“	Zhan	Zhang
93	“	李反才	李友才
94	“	Song et Li	Song et Lu
109	学名	hainiensis	haniensis
121~ 128	著者名	Wan	Wang
129	“	Yong, Wang et Yan	Song, Wang et Yang
133~ 139	“	Liu et Song	Yu et Song
135	学名	binale	binalis

1988年および1989年に入手した東アジアのクモの文献

[ ]内の番号は八木沼所有文献の整理番号、( )内は既報の新種番号。

- [6924] 陳樟福・宋大祥, 1988. 中国指蛛属(*Bathyphantes*)一新種. 動分学報, 13(1):42-44.
- [6926] 宋大祥・邱瓊華, 1988. 球腹蛛科(*Theridiidae*)の分類. 陝西師大学報, (3):74-83.
- [6936] 趙敬釗・劉鳳想, 1988. 黄褐新円蛛(トヨウキクモ)生物学以及对綿虫的控制作用. 動学報, 33(2):152-158.
- [6938] 余克慶・趙敬釗, 1988. 関于温度对細毛水狼蛛(*Pirata*)の发育和繁殖影響の模型化研究. 湖北大報, 1988-2:20-24.
- [6939] 李代芹・趙敬釗, 1988. 炭凝集試験和皂土凝集試験在研究棉田蜘蛛捕食効応中的应用. 湖北大報, 1988-2:76-81.
- [6941] 張永靖・王家福, 1988. 卵形棚蛛(*Hahnia ovata*)雄蛛の描述. 動分学報, 13(2):205-207.
- [6942] 虞留明・宋大祥, 1988. 中国狼蛛科(*Lycosidae*)新種記述. 動分学報, 13(3):234-244. (#133-139)
- [6943] 唐立仁・宋大祥, 1988. 中国蟹蛛科新種記述. 動分学報, 13(3):245-260. (#140-148)
- [6945] 趙敬釗, 1988. 食物和温度对叉斑巨齒蛛(*Enoplognatha japonica*)发育的影響. 動雜, 23(2):5-7.
- [6971] 黄其良・宋大祥・張立志, 1988. 中国跳蛛科(*Salticidae*)種類記錄. 徽州師專学報(自然科学版)
- [7056] Marusik, Yu. M. & A. A. Ziuzin, 1988. A new species of spiders of the genus *Acantholycosa* (Aranei: Lycosidae) from the East Siberia.
- [7061] Zabka, M., 1988. Salticisae of Oriental, Australian and Pacific Regions, III. Ann. Zool., 41(4):422-479.
- [7091] Schwendinger, P., 1988. Biological observations on *Orthognathus* spiders in northern Thailand (Araneae: Mesothele, Mygalomorphae). XI. Eurospaische Arachnologische Colloquium. pp. 231-237.

- [7093] 趙敬釗・袁愛榮, 1988. 食物和溫度對貓卷葉蛛 (*Dictyna felis*) 繁殖力的影響. 動物學報, 34(4):371-374.
- [7095] 趙敬釗・馬安寧, 1988. 溝渠豹蛛 (*Pardosa laura*) 和星豹蛛 (*P. astrigera*) 各齡形態特征比較. 動雜, 23(5):1-4.
- [7097] 趙敬釗・余克慶, 1988. 溫度對黃褐新円蛛 (*Neoscona doenitzi*) 歷期和繁殖力的影響. 生態學報, 8(2):140-146.

### 東シベリアで採れた日本のクモ

最近入手した『クモとサソリのファウナと生態』(ソ連科学アカデミー, 1989)の中に、東シベリアのクモを研究している Yu. M. Marusik 氏の「ソ連のクモのファウナの新資料とシノニム」の記事があり、新しくソ連のファウナに加わった日本でなじみのクモの名が出ているので紹介する。産地は主としてアムール地方、沿海州地方である。何かのご参考になれば幸いである。

1. *Araneus pinguis* Karsch, 1879
2. *A. tsuno* Yaginuma, 1972  
T. I. Oliger が新種とした *A. maculifrons* Oliger, 1982 を *A. tsuno* のシノニムとしている。
3. *A. variegatus* Yaginuma, 1960
4. *A. abscissus* (Karsch, 1879)
5. *Neoscona scylla* (Karsch, 1879)
6. *Pronous minutus* (Saito, 1939)
7. *Zilla sachalinensis* (Saito, 1934)
8. *Leucauge subblanda* Bös. et Str., 1906
9. *Metleucauge yunohamensis* (Bös. et Str., 1906)
10. *M. kompirensis* (Bös. et Str., 1906)
11. *Tetragnatha squamata* Karsch, 1879
12. *T. yesoensis* Saito, 1934
13. *Theridiosoma epeiroides* Bös. et Str., 1906
14. *Achaearanea angulithorax* (Bös. et Str., 1906)

15. *Argyrodes saganus* (Dön. et Str., 1906)
16. *Enoplognatha margarita* Yaginuma, 1964
17. *Lysiteles maius* Ono, 1979
18. *Xysticus ephippiatus* Simon, 1880
19. *Octonoba yesoensis* (Saito, 1934)

本書には以上のほか、他の学者のワシグモ科の電顕写真、*Xysticus*のリスト、その他の地方のリストなどが出ている。

本書を寄贈下さったYu. M. Marusik氏に厚くお礼申し上げる。

---

### 最近の話題より

#### — *Pardosa isago* について —

田 中 穂 積

最近、中国のクモ学者との交流がさかんになり、文献や標本の交換も増えつつある。

つい最近、中国山西省のコモリグモ科の一種で、*Pardosa lyrifera*と同定されている標本(♀♂)を、朱明生博士・八木沼健夫博士を通じて検する機会を得た。検討の結果、それらの個体は、私がすでに発表した、*Pardosa isago*(イサゴコモリグモ)とまったく同じであった。

中国のここ数年の論文を調べてみると、*Pardosa isago*と同定し、記載しているもの、*P. isago*をSchenkel(1937)による*P. lyrifera*のシノニムにしたもの、*P. isago*と*P. lyrifera*の両種名を載せているもの等が見られる。

上記の様に、中国の標本を検することによって、中国にも*P. isago*の存在することは確認出来たが、今後、*P. isago*が*P. lyrifera*のシノニムになるか否かが問題になるので、更に研究を進めていくつもりである。

日本のクモを研究するには、日本に近接した国、中国や韓国等の論文には、特に目を通す必要があるとともに、論文だけでは種名の決定に迷うことが多々あるので、標本等の交換も今後重要な意味を持つものと思う。

[ ト ピ ッ ク ス ] 文在根氏来日

中国吉林省・白求恩医科大学助教授文在根氏は1982年から2年間日本に留学し、日本のクモ学者・ダニ学者と交流を深めて帰国されましたが、1989年5月に日本土壤動物学会に出席のために再来日されました。1ヶ月足らずの短い期間でしたが、精力的に各地を巡り旧交を温めました。文氏の関西との交流を中心に報告します。

★スケジュール

5月8日 上海から鑑真号で大阪南港着、直ちに藤沢市の青木淳一氏宅へ。八木沼・西川が出迎え見送り。

5月14、15日 宇都宮での土壤動物学会に出席。ダニに関する研究発表。

5月19日 大阪へ。関西有志による歓迎懇談会。出席者は八木沼健夫、西川喜朗、田中穂積、渡辺好章、山野忠清、清水裕行、加村隆英（当日の世話人）の各氏。

5月20日 大阪発、各地を巡る。八木沼・西川が見送り。

5月27日 大阪着。西川・清水が出迎え。山野氏宅で宿泊。

5月28日 田中氏宅で宿泊。

5月29日 大阪国際空港発で帰国。八木沼・西川・田中が見送り。

★文氏提供の中国クモ学界の情報

中国蛛形学会

メンバー：137人

本部：白求恩医科大学生物研究室

主任：朱伝典氏

副主任：宋大祥・王洪全・陳孝恩の各氏

中国のクモ

48科296属1281種19亜種（1986年5月現在）。

建国以来の中国学者による新種発表は189種。

## 木村武比古先生との思い出

八木 沼 健 夫

木村武比古氏と私との交際は古く、初めてお会いしたのは昭和22年の初夏、大阪府博物学会の例会が大阪府立大手前高校で開催されたときである。この会に出席しておられた私達の生物学の恩師千原勉先生から、クモを研究したい学生がいるからとて紹介された木村氏は当時、大阪第一師範学校の学生で18才であった。昭和25年卒業後すぐ泉南郡新家小学校に赴任された。以来クモの研究に専念され、度たび私の家を訪ねて勉強された。

木村氏が初めて研究発表をされたのは昭和26年、大阪学芸大学で開催された大阪府博物学会の例会である。「和泉地方のクモ類」と題して講演された。当時の大阪でクモの名を知る人はほとんどなく、参会の大先生方が、多数のクモの名を聞いて、「動物図鑑にはわずかしか出ていないのに、どうして名をしらべたのか」と驚かれたのは今も忘れない。

氏はその後、大阪市立北田辺小学校・西船場小学校・山之内小学校に転ぜられた。この間に大阪学芸大学定時制へ通って中学校教員の資格を得られた。

現関西クモ研究会の前身である東亜蜘蛛学会関西支部の設立とA T Y P U S 発刊に努力された。支部の生まれる少し前に、大阪のクモの同行会を作ろうと言いつたのは木村氏であった。当時のクモのメンバーとしては、他に故小村忠夫氏（コムラウラシマグモに名を残す）、故山野滋裕氏（大阪で初めてトリノフンダマシの♂を採る）、児島弘氏（大阪で初めてキシノウエトタテグモを発見）、大志茂善平氏（クロマルイソウロウグモの最初の発見者）、木村重仁氏がおられ、大井良次先生と私とその相談役であった。この会は正式に発足する以前に、本部からの希望により昭和27年以来東亜蜘蛛学会関西支部となり長く続いた。世話好きで労力と費用を惜しまず、しかも縁の下の力持ち的存在として尽力された木村氏の献身的な活躍がその基盤となっている。支部設立後も、例会・採集会・学会大会開催などでずいぶんお世話になった。

関東へ移られた昭和48年までの20年間、毎年のようにいっしょに採集に出かけた。いつもなかよく2人で行動を共にしていたので、その土地で兄弟かと思った

人もあった。岩湧山・吉野山・犬鳴山・葛城山・山中溪・箕面・奈良奥山・小豆島ほか数知れず。氏はさらにJIBP、大阪市立自然史博物館を始め、その他公的な地域調査にも参加され、また単独で各地に出かけファウナの究明につとめられた。

昭和39年9月のTVで「ひるのおくりもの」の時間にクモについて私がアナウンサーと対談した時、子供の話し相手として木村氏の教え子を数人お借りし、この時に使用した映画の撮影には木村氏に協力してもらった。昭和40年5月木村氏は当時の大阪大学教授佐藤馨根博士と共演でTVを通じてクモの話を送られた。

氏はしばしばATYPUSに投稿されたが、その中でも「明治・大正・昭和の小学校教科書に出てくるクモ」(ATYPUS, 46/47, 1968)は力作である。

ATYPUS以外に発表された業績として次のものがある。

1951 和泉地方の蜘蛛類(講演テキスト)

1957 クモの観察(理科教育資料として自刊)

1964 理科教材としてのクモについて(自刊)

1964 奄美大島・沖永良部島のクモ(関西自然文化研究会会報(1)) 八木沼と共著

1965 動物生態野外観察の方法(築地書館) 八木沼と共著でクモの項を執筆

1971 生物農業としてのクモの利用(杉野久雄教授退官記念誌)

このほか、学校図書発行の小学国語3年上に「ふしぎなクモの糸」の下原稿を作られたことがある。

## 小野武比古先生の思い出

清水裕行

小野(木村)武比古先生に初めてお目にかかったのは、1968年9月29日、大阪での「大阪クモ談話会」第1回例会の席上であった。この日の出席者は八木沼健夫先生以外は初対面だったが、ATYPUS誌上で活躍している方ばかりだったのでお名前は既にぞんじていた。おかげで、最初から打ち解けて話すことができた。その後、蜘蛛学会関西支部(談話会を改称)の例会のほかに、大台ヶ原、富士山、三木市の調査に御一緒した。大台ヶ原の調査の時、夜の雑談の際に先生は、



「八木沼先生の著書を全部コピーして、各種毎に図と記載分を貼り合わせて完璧な図鑑を作りたい」とおっしゃった。実に面白い企画で、自分もやってみたいと思ったものだった。今にして思えば、これが現在進行中の私のクモ学文献データベースのルーツであったようだ。大台ヶ原の帰りに先生のお宅にお邪魔して、標本や文献を見せていただき、ズズミグモとシマゴミグモの標本をいただいたのも懐かしい思い出になってしまった。その後、先生は関東に移られ、お仕事も御多忙でお会いする機会もなくて今日を迎えてしまったのは返す返すも残念で、せめてお手紙でも差し上げておけばと悔やまれてならない。

## 木村先生の事ども

田 中 穂 積

木村先生との最初の出会いは、いつの間にか、ずい分と古い昔の事になってしまった。私が大学に入学（昭和40年）し、八木沼先生の指導の下で、少しずつクモをやり始めたころの事になる。大阪市立大学の近くの山之内小学校での、大阪メンバーによるクモの談話会に出席し、先生の事を知ったのが、最初の事のように記憶している。その時の印象は、小学校の先生らしく、やさしく、ていねいで、もの静かな人の様に思えた。

その後、先生とは、三木市だと思うが、クモの環境調査の時に、お会いした。詳しい事は忘れてしまったが、その時に、先生が、採集ビン等を入れる小さなバッグ（つり等で、小物を入れるためのものだと思う）をめざとく見つけ、「なかなか便利なバッグですね。…」との様な会話をしたと思う。その後、何の時に出会ったのか記憶がないのだけれど、その時に、先生は前のバッグの事をおぼえておられて、私のために、わざわざ同じバッグを買って来られたのであった。先生の人柄というか、“あたたかさ”を感じとったものであった。なんと、私は、その小さなバッグを今も、採集に行く時は愛用しているのである。ほぼ20年間もである。その後は、出会う事もなく、このようなことになってしまったけれども、まだまだ御活躍して欲しかったのにと残念でしかたがない。最後になりましたが御冥福を祈ります。

## 木村先生にもらったザルの皿

西川喜朗

木村（小野）武比古先生とは、1967年以來のおつきあいで、私が東亜蜘蛛学界に入会以來、八木沼先生をかこんでのクモ屋さんの集まりや、関西支部の例会などで、いつもお世話いただいて感謝しております。

以來、毎年夏には八木沼先生たちと、奈良県の吉野山での一泊旅行の観察会をはじめ、大台ヶ原山・富士山・三木市の福祉エリアなどの各地の調査によく一緒にいきました。

JIBPの大台ヶ原のクモの調査（1972年8月始め）では、清水裕行氏とともに、2泊3日のバンガロー生活をした。この時、先生にいただいた物で、その後の私の野外調査にたいへん役立っているものがあるので、先生への追悼の意をこめて書かしていただく。

じつは、私が長年愛用している落葉ふるい用のザルの受け皿は、木村先生にいただいたもので、それまでは、別にも買った適当な大きさのアルミのバットを使っていた。ところが、大台ヶ原のバンガローで、採集道具の話をしていた時、木村先生が持ってきていたプラスチック製の受け皿と、私のザルとがぴったりと合った。先生はすぐに、「それよりこっちの方がええり、あげるり」と、いとも簡単に私にくださった。

あの時は新品同様で、横の花の絵も、山で持ち歩くには少々恥しいぐらいだったが、今はもう、角が欠け、割れた底にガムテープをはり、全体がかすり傷だらけで色あせてしまった。ザル（目の大きさ：9 X 5 ミリ）だけはバラで売っているので時々買いかえるが、何よりも、この受け皿とセットにしてスナップザックに入るので、丁度手ごろな大きさ（30 X 24 X 8 センチ）である。私の採集道具の中でいちばんお気に入りの、だいに使っているもののひとつである。

その後、機会あるごとに、予備のものを求めて、大阪市内の百貨店を何回も何回もまわったり、旅行先の荒物屋でもさがすが、これに変わるものは、いまだに見つからない。さらに登山者用の真ちゅうのケースに入った温度計と、18センチのピンセットもいただいた。「まだまだ先生が使えるのに」と、おことわりしたが、結局喜んでいただいた。この18年間、国内各地はもちろん、外国の調査にも、

いつもこのザルのセットや温度計を持って行っている。今となっては、これらはかけがえのない貴重な遺品です。

もうひとつ、先生からヒントを得たものに、採集用のアルコール入れがある。先生はフジフィルムの現像停止液用の白いプラスチック製の容器（100CC）にアルコールを入れてこられ、ランプ（コンロ）や標本用に使われていた。「アルコールを山に持って行くには、これは便利なものだ」と、その時、ひどく感激したのを憶えている。こちらの方は、色々な容器を試してみたが、結局、200CC入りのシャンプーの容器におちついた。筆箱より少し太めで、ふたの中央に穴のあいているヤツである。最近では、変な形のヤツ、複雑なふたのヤツなどが多くて、気に入ったのを見つけるのに苦労する。

そして、大台ヶ原の帰りに先生のお宅におじゃましたが、またまた心よく（？）Atypus誌の古いバックナンバーの余分を10冊ほどいただいた。「えらい気前よく、何でもくれる先生やなァ」、「俺は物をもらいやすい人相をしているのやろうか？」と、単純な私は思ったが、とにかくありがたくいただいた。

また同じ年の夏に、富士山のクモの調査（8月終り）があって、私の軽自動車「スズキ・フロンテ」で、茨木から高速道を通り本栖湖畔の宿まで、ずうーと2人で走った。長くて暑い旅行だった。（車にはクーラーはついていなかった。）が、先生は苦にされる様子もなく、静かに休暇を味わっておられる様であった。清水裕行氏がまる1日遅刻して来た時だった。日本ではじめて、例のザルでアリサラグモが採れたときであった。

先生は、非常に親しみやすい性格で、細かいところにもよく気がつき、たいへんいきとどいたお世話をして下さいました。

小柄な体であるが、デンと座ると腰が重く、クモの話や子供の教育の話になると、あのドングリまなこで、口をとがらせて、口角泡を飛ばさんばかりに、話されていたあのステテコ姿が思い出されます。もう一度、吉野の山の旅館へ皆んなで行きたかったですね。

先生、ザルの受け皿、ほんとうにありがとうございました。

いろいろご苦労さまでした。安らかにやすみ下さい。

## 1 9 8 8 年 度 観 察 会 報 告

〔時〕 1988年 6 月 19日

〔所〕 西宮市 夙川河畔

〔参加者〕 加村隆英、西川喜朗、大崎茂芳、田中穂積・理子、四ノ宮榆里・靖大、  
細田みどり、井上晶子、清水裕行、（部分参加）垂水有三・佑紀子・さ  
つき

久しぶりで観察会を開催しました。これまでは、遠出して「自然らしい自然」を対象にしてきましたが、今回はちょっと趣向を変えて「都市近郊の自然」に挑戦しました。（本音は天候にたたられて何度も中止しているので、いざという時帰りやすい場所を選んだわけです。雨天の場合は夙川河口付近にある「菊池貝類館」の見学に切り替えるつもりでした）

午前11時前に幹事の清水が集合場所の阪急夙川駅に到着、待機。田中父子、四ノ宮母子、西川氏、加村氏、大崎氏、初参加の細田氏、垂水父子が三々五々到着。垂水氏は都合で参加できないので、せめてお見送りとのこと。定刻を少し過ぎたところで出発。夙川右岸の河川敷公園を北上。

早速観察を開始する。環境は比較的単調だが、松と桜の並木や灌木の植え込みから以外と多くのクモが見つかる。加村氏が松の樹皮の下からワシグモ類をいくつか採った様子。途中で井上氏が合流。

夙川駅から約2.5kmの北夙川橋付近でおそい昼食をとる。自己紹介・近況報告の後各自が自由に採集・観察。川の中州に草が茂っていて、田中氏はコモリグモを採集しておられた。

更に上流に向けて観察しつつ移動。銀水橋（2級河川夙川の起点）に到達。ここから更に登って、北山公園内の植物園まで行く予定だったが、時間がなくなっただけのため急遽変更して、近くの甕岩神社に向かった。ここでしばらく観察した後、参道を下って阪急・苦楽園口駅で解散した。

## 最近の収穫

### 1. 夙川河川敷のワシグモ類

加村隆英

1989-VI-19, 兵庫県西宮市, 2級河川夙川。

1. *Poecilochroa hosiziro* Yaginuma

ホシヅノトビクグモ

2. *Herpyllus anatolicus* Kamura

ナシトビクグモ

新種記載の際にこの♂をallotypeとした。(『八木沼健夫教授退職記念  
論文集』, pp. 111-115参照)

### 2. 夙川河川敷のコモリグモ類

田中穂積

1989-VI-19, 兵庫県西宮市, 2級河川夙川。

1. *Lycosa pseudoannulata* (Bös. et Str.)

キクツキコモリクグモ

2. *Arctosa subamylacea* (Bös. et Str.)

クロココリクグモ

3. *Pirata piratoides* (Bös. et Str.)

イモコモリクグモ

いずれも草原に生息し、湿地を好む。

### 3. 堺市内のクロガケジグモ

清水裕行

*Ixeuticus robustus* (L. Koch)

1989-VII-12; 堺市南島町月洲(ツクス)神社。採集後に産卵。この神社は八木沼博士の中学時代の通学路に当たったそうである。本種は昭和の初期にもここにいたのだろうか。

## 会員の消息

1. 八木沼健夫氏 1989年3月31日で追手門学院大学御退職（追手門学院40年、内大学23年）。4月1日より、同大学大学院心理学科の生物学の非常勤講師として週1回出講。
2. 加村隆英氏 1989年4月1日より八木沼氏の後任として追手門学院大学に生物学の専任講師として着任。日本蜘蛛学会本部の事務にも協力される。
3. 田中穂積氏 1989年4月1日より園田学園女子短期大学に助教授として就任。
4. 伊藤千都子氏（京都大学理学部動物学教室） 昨年6月4日に結婚され、東姓となられた。
5. 西川喜朗氏 1989年7～8月、追手門学院大学学生の海外研修の引率者としてヨーロッパに出張。また同年10月～11月には、小野展嗣氏らとともに台湾へ研究出張された。
6. 1989年8月に開催された日本蜘蛛学会第21回大会（宮崎市）に関西からは、金野晋・加村隆英・田中穂積・東条清・八木沼健夫・吉田真の諸氏が出席された。

### \* \* \* 編 集 後 記 \* \* \*

「くものいと」第7・8合併号をお届けします。大井良次博士が昨年5月20日に逝去されたため、本号を博士の追悼特集号としよう準備を進めていたところ、11月24日には木村武比古氏が逝去されましたので、発行をおくらせて合併号として、両氏の追悼特集を組みました。本会の前身「東亜蜘蛛学会関西支部」の設立・運営に御尽力下さったお二人を失ったことは誠に悲しいことです。両氏を偲ぶことはそのまま本会の歴史を振り返る機会となることでしょう。1989年は植村利夫博士に続いて両氏を失うという悲しみの年でもありました。心から3氏の御冥福をお祈り申し上げます。

（清水裕行）